

Bulletin of the Faculty of
Art and Design
University of Toyama
Vol.11, March 2017

teacher's gallery

紀要ギャラリー：教員作品

P.28 有田行男

P.29 武山良三

P.30 中村滝雄

P.31 西島治樹

P.32 林 暁

P.33 萩野紀一郎

P.34 ペルトネン純子

P.35 横山天心

P.36 渡邊雅志



教員名：
有田 行男
Yukio Arita

専門分野：
デザインマネジメント、プロダクトデザイン、コミュニケーションデザイン



タイトル：「真冬の南国になりたい植物園」

日時：2015年12月19日（土）～2016年2月14日（日）

主催：（一財）氷見市花と緑のまちづくり協会

開催場所：氷見市海浜植物園

内容：プロジェクトプロデュースとプロジェクトマネジメントを担当。

氷見市海浜植物園との連携プロジェクトを「事業計画立案演習」にて実施。植物園が抱える「冬場の集客アップ」という課題に対して、学生らがサーベイを行い「真冬の南国になりたい植物園」というイベントデザインを企画。

学生が園内展示物の制作と運営に携わり、ワークショップでは実際にお客様をお迎えした。右上写真は事前のプレス発表会、右下の写真はワークショップの様。 (イラストレーション：デザイン情報コース 湯浅亜依ほか)



教員名：
武山 良三
Ryozo Takeyama
専門分野：
サインデザイン



作品名：御印祭ビジュアルデザイン

制作年：2016年

制作内容：B1及びB2サイズポスター、
B5サイズカタログ表紙

概要：高岡鋳物発祥の町・金屋町で毎年6月19日、20日の両日に開催されている「御印祭」の広報物デザイン。素晴らしい価値がありながら埋没していた地域の伝統行事を、ポスターによって印象的に伝えることを目指した。2001年より継続して制作しており、年ごとの変化と一貫性をバランス良く保つと共に、歴史的な町並みに貼り出されることに配慮している。それぞれの町屋に綺麗に掲出してくれている人々の様子を見ると、町の人と一緒にデザインしているという喜びがある。





教員名：
中村 滝雄
Takio Nakamura

専門分野：
金属立体造形（金属彫刻）

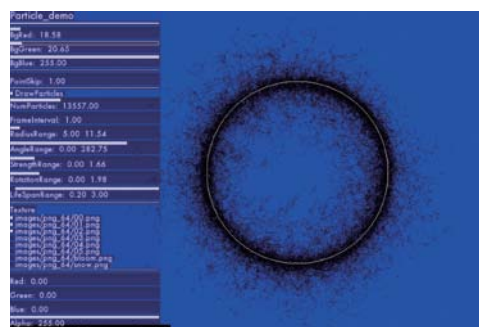
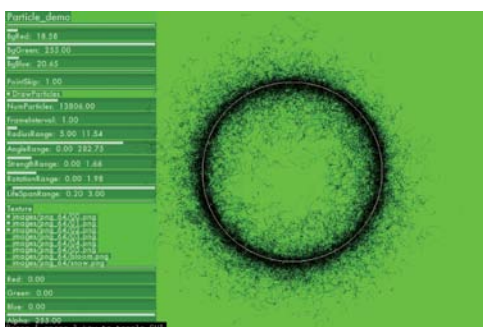
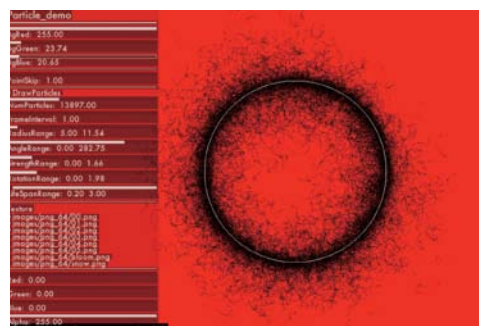
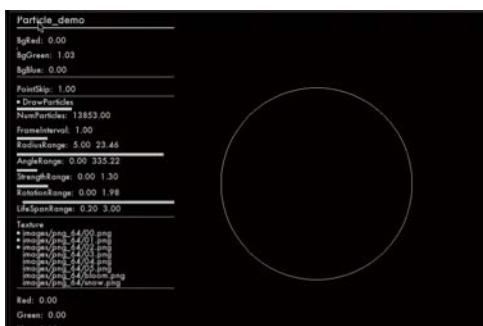
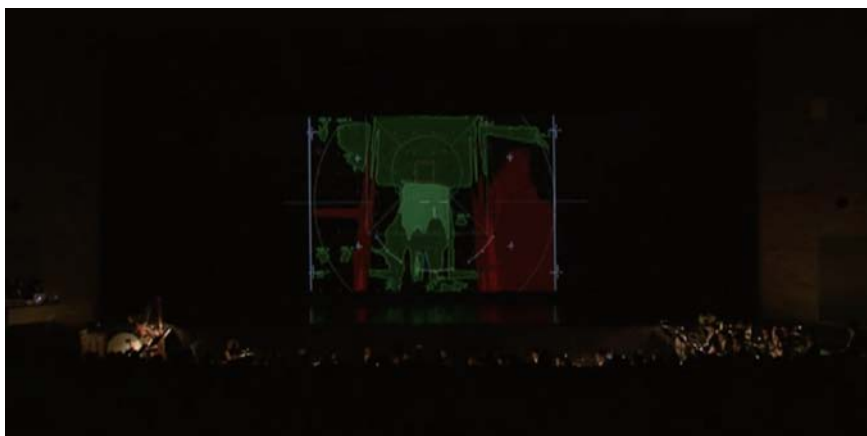


作品名 : 表出一鉄の様相一
寸法 : H : 450 × W : 860 × D : 850cm
素材 : 鉄
技法 : 鍛造
制作年 : 2015
発表場所 : 松村外次郎記念 庄川美術館
内容 : 中村滝雄展 表出一鉄・鉄の形態一（美術館企画）



教員名：
西島 治樹
Haruki Nishijima

専門分野：
現代美術・メディアアート



作品名 : カメラ〜枯れたGPSのために
「ループ」 交響曲第9番第2楽章 ベートーヴェン
「プライバシー」 3つの映画音楽より ワルツ「他人の顔」武満徹
「スピード」 亡き王女のためのパヴァーヌ ラヴェル

寸法 : 可変
素材 : 映像、距離センサー、カメラ、コンピューター
制作年 : 2015
発表場所 : 高岡市民会館
音楽 : 指揮：鈴木織衛
管弦楽：オーケストラ・アンサンブル金沢

特別協力：共信コミュニケーションズ株式会社



教員名：
林 暁
Satoru Hayashi

専門分野：
美学・漆工芸



1、乾漆溜塗輪花盤

平成11年 第16回日本伝統漆芸展

乾漆技法によって作られた五十五稜の花弁状の縁を持つ輪華盤。全体に朱塗りを施した上に透漆を十数回重ね塗りしてぼかし、呂色磨き仕上げしたもの。



2、乾漆真塗盤

平成17年 第51回日本伝統工芸展

長手の乾漆造りによる4本の脚を持った盛器である。船を設計するときのような手法で線図を描き制作したもので、第49回日本伝統工芸展出品作の連作。4本ある脚部を檜材から削りだし仕上げは蠟色塗りの呂色磨き仕上げとなっている。



教員名：
萩野 紀一郎
Kiichiro Hagino

専門分野：
建築設計、建築保存・再生、インテリア・デザイン



作品名 : 町野の栗園の住宅&倉庫-コンヴァージョン&リノベーション

構造・規模 : 木造一階建て、総面積：約520㎡

用途 : 住宅、倉庫

制作年 : 2015年、オリジナルは1966年建設（木構造はさらに古いが詳細不詳）

発表場所 : 石川県輪島市町野町

内容 : 廃業した土木建設会社の事務所・倉庫から、若い栗農家の住宅・倉庫へのコンヴァージョン&リノベーションプロジェクト。既存建物は昭和41年（1966年）に建てられたものだが、木構造やトラスはそれ以前に廃校になった学校の校舎のものを再利用したといわれている。建築面積が大きく、予算が限られていたので、住宅部分の耐震と断熱を最優先し、仕上材は合板や石膏ボードなど、素地のままで極めてシンプルであり、今後住みながら手を加えていく予定である。木造建築は、補強や改修を施しやすいので、用途に対応しながら長く使い続けられるサステナブルな構法であることを改めて確認した。



教員名：
ペルトネン純子
Peltonen Junko

専門分野：
金属工芸、美術教育



展覧会名：「ジュエリー制作A 授業成果作品展」
 日時：2015年10月10日（土）～12月13日（日）
 場所：富山ガラス工房ギャラリー
 内容：ジュエリー制作Aの授業成果品を富山ガラス工房所属作家のガラス作品と組み合わせ、展覧会をおこなった。（展示企画、会場構成を担当）



作品名：卒業記念制作
 制作年：2015年
 場所：富山県立伏木高等学校
 内容：伏木高校の正面玄関壁面に「越中万葉」の情景と短歌を、伏木高校生、芸術文化学部生とともに制作した。



教員名：
横山 天心
Tenshin Yokoyama

専門分野：
建築意匠



新高岡駅観光交流センター

建築面積：794m²

延床面積：953m²

構造：鉄骨造2階建

用途：観光案内所+待合室+テナント+公衆トイレ

コンセプト：

以前の高架下施設では、ヒューマンスケールを逸脱したRCの高架柱を、閉じた部屋の中に入れ込むことで柱として認識できないようにするか、柱を仕上げ材で覆い隠すことでさらに大きな柱として表出させてきました。双方とも、土木柱を消極的に捉え、そこでの空間は、建築的というよりは土木的または都市的スケールを有していました。そこでここでは、高架柱を積極的に捉え、土木と建築のスケールが融合した新しい関係を求めました。



教員名：
渡邊 雅志
Masashi Watanabe
専門分野：
プロダクトデザイン



作品名 : 記念品「家コンパス」
寸法 : W71 × D74 × H103mm
素材/仕上: レッドウッド、方位磁石/無塗装
コンセプト: 立っている家をねかせてN極に合わせると、家が矢印となつて北を指します。同時に自分が中心である事もわかります。
制作年 : 2014年

作品名 : 記念品「ウカブモノ」
寸法 : W162 × D320 × H162mm
素材/仕上: ヒノキ、テグス/無塗装
コンセプト: モビール「ウカブモノ」を見て何のかたちだと思ってしまう。頭の中で“思い浮かべた”ことがすべて正解です。
制作年 : 2015年

イベント名: こどもたてもの探偵団
主催 : 日本建築学会北陸支部
開催場所 : 富山大学人間発達科学部 (富山市)
テーマ : 身近な建物や街並みに興味を持つことを目的とした小学生対象のワークショップ。記念品制作を担当。



展覧会名 : 北極科学サミット2015 (ASSW2015)
日時 : 2015年4月23日 (木) - 4月30日 (木)
主催 : 国際北極科学委員会 (IASC)
共同主催 : 日本学術会議
開催場所 : 富山国際会議場 (富山市)
内容 : ASSWは毎年開催される北極科学に関する世界最大のイベント。日本での開催は初。世界26の国と地域から708名の参加。エントランスの会場構成を担当。